

梅についての考察

作：岡田 弘

ウメ（梅）バラ科サクラ属、落葉高木、花期＝2～3月

*ウメの名前の由来＝「烏梅（うばい）」の形で中国から伝来したのを、日本人が「ウメ」と聞き取ったために「ウメ」と呼ばれるようになった。平安時代には「ムメ」と呼ばれていた。など諸説ある。

梅の漢字の語源は、梅と言う字は形声字で「木偏」からなっている、「毎」は象形文字で本義は氏族社会の中で子供を最も多く育てた母親のことです、梅が実を付ける時、必ず枝全てに累々と実をつけていることから、人々は一種のめでたい樹木と考えたようです「梅」の字はこうした由来から生まれたとの説。子孫繁栄でめでたい話です。

一般的には中国からの渡来と言われていますが、日本にも野生の梅の木があったと言う説もあります。

日本で一番古い梅の核が発見されたのは、弥生時代（紀元前10世紀頃）の遺跡からで、縄文時代の遺跡からは発見されていません。

梅の原産地は、中国の長江中流、湖北省の山岳部、四川省だと言われています。中国では3000年以上前から燻製（くんせい）した青梅を薬用として使用していた、日本では8世紀（奈良時代以前）遣唐使が中国から漢方薬の「烏梅（うばい）」を持ち帰り、熱冷まし、下痢止め、解毒、腫物、等に使われた。【烏梅とは・青梅を燻製にした生薬です、青梅の実を籠に入れ竈の煙で黒くいぶし乾燥させて作ります、色が黒く香気があり、カラスの様に黒いから「烏梅（うばい）」と名付けられた。】

日本で普及したのは、村上天皇（946～967年）が疫病にかかった時、梅干しと昆布を入れたお茶を飲んで回復したと言う記録もあり、これが元旦に飲む縁起物として今に受け継がれている「大福茶」の起源とされる、又、鎌倉時代の文献には「梅干しは僧家の肴」と書かれています、梅干しはお坊さんの酒の肴として利用されていたのです、この風潮は武家にも広がり、武士の出陣の際には縁起を担いで必ず梅干しを食べたと言われます。戦国時代に入ると軽くて日持ちがよいのでおにぎりに重宝された。江戸時代に入ると様々に加工された梅干し（紫蘇漬け・砂糖漬け、など）を売り歩いたとあります。

話を元に戻しますと、万葉集は7～8世紀後半ころに編纂された日本に現存する最古の和歌集です、4500首以上集められており、中でも、ハギの花に次いで2番目に梅の花を読んだ歌は**118首**あります、梅の花を簪（かんざし）に・・・なんて小粋な歌もあるようです。（水本さんが生存されおればと思います）

故に当時の花見は、ハギの花見であり、ウメの花見であったようです、現代の桜の花見とは違うようです。

*梅の木と桃の木の見分け方＝梅の木の新枝は緑色です、この新枝に蕾が付き花を咲かせます、梅の枝を剪定するのは新しい新芽を多く出させるためです。緑色の新枝も日がたつと太陽に当たり赤くなってきます。

*桃の木の新枝は最初から赤茶色をしています。桃も最近では実のつかない花桃が多く植栽されています。

梅の木の種類は「花梅」と「実梅」の2種類があり、約**300種類以上**あります。一般的には花梅と実梅に分けられるが両方の性質を併せ持つ品種もあります。

1、野梅系＝花が小さく、香りが強いのが特徴。日本の野生種である野梅を起源とする品種群。

2、緋梅系＝花が大きく華やかな印象を与える。赤い花を咲かせる緋梅系を起源とする品種群。

3、豊後系＝花は大きい香りは控えめの傾向にある。梅と杏子の雑種と言われる品種群。

◎関西での梅どころ南部の「南高梅」について調べてみました。

江戸時代この地を治めていた安藤直次がやせ地や傾斜地で年貢の負担に苦しんでいる農民を救うべく、この地に自生していた藪梅を育てれば年貢を減ずると育成を奨励した、当地で育てられた梅が江戸にも運ばれ徳川幕府8代将軍が絶賛するほどになった。明治時代にコレラ、赤痢、等の流行病対策、又、日清、日露戦争の兵隊の常備食として需要が増え高値で売買されるようになったので栽培する農家が急激に増えた。1979年頃優良系統の梅を発見、これを母種として苗木を増殖、この苗木を購入したものが変異した実が紅色になる新種を発見これを挿し木で増やして「高田梅」と名付け栽培面積を増やしていった。1950年上南部村では優良品種の栽培を統一をするために選定委員会を設立して5年にわたり調査、37種類の候補から「高田梅」を最高品種と認定、調査に尽力した南部高校の教師竹中勝太郎（調査委員長）であったことから、高田の「高」と



南高梅の花